

大好きなお母さん 長生きしてくれてありがとう

～ 今年2月に100歳を迎える 多森チヨコさん～



はるかぜ訪問看護ステーション

春日クリニックかかりつけの多森チヨコさん。週に1回、訪問看護を利用されています。「何もしないでじっとしてられない。」と、毎日ご自宅のソファで大好きな編み物をして過ごされています。

多森さんは今年の2月27日で100歳。ご本人と娘さんにインタビューをさせていただきましたのでご紹介します。(はるかぜ訪問看護 田中)

「100歳を迎えられることがうれしくてたまらない。こんな日が来るとは…これも院長先生や訪問看護師さんのおかげです。」と娘のクニ子さん。以前通っていた病院で「お母さんの体調の回復は難しい」と言われたものの、諦めず必死に信頼できるお医者さんを探したそうです。清田理事長のことを以前から知っており、「在宅医療を受けるなら春日クリニックだ」と決心。顔色は悪く、食事も摂れなくなっているお母さんを何としても助けたい、という思いで受診されました。

「お母さんは大丈夫よ。」と清田院長の一言。すぐに医療面の対応で訪問看護が始まりました。毎日訪問し、点滴や在宅酸素の管理、生活指導を行ったところ、みるみるうちに食欲が戻ったチヨコさん。顔色も良くなり笑顔も戻りました。

今では大好きな編み物を再開できるまでになり、家の周辺の散歩が日課となっています。お部屋は毛糸で編んだコースターや敷物、カバーなどが飾られ素敵なインテリアでいっぱいです。



ソファで編み物をする
多森さん



最近の作品
カラフルで綺麗です



コースターとしても
大活躍しています

娘 クニ子さんからのお手紙

春日クリニックにお世話になってから母はとても元気になりました。月に1回の診察を母はとても楽しみにしております。院長先生が笑顔で「大丈夫ですよ」としっかり目を見て言ってくださり、帰り際には母はいつも笑顔になります。それが私自身とてもうれしいです。

初回の訪問看護で数日間点滴をしていただき、母は命と元気をいただくことができ、本当に感謝しています。今は週に1回の訪問看護で、安心の提供、心のケア、アドバイスもあり、楽しみながら母の介護をしています。「いつでもお電話ください」と言ってくださり、言葉では表せないほどの安心と感謝、うれしさを感じています。(多森クニ子)



恒例 窓からのお見送り

多森さんは、熊本地震の経験から、大雨・台風の被害が予想されるときは、携帯酸素を持参してホテルに避難されています。そんな状況をお孫さんが心配し、サプライズで新しい家のプレゼントを決心されたそうです。赤ちゃんの時からずっと面倒をみてくれたおばあちゃんのことを大切に思うお孫さんで、介護にも熱心に取り組まれています。今月新居に引っ越しされますが、これからも安心して過ごしていただけるよう、サポートを続けていきたいと思えます。